

これからの地域づくりは 一人ひとりが主役になる

「地域づくり」と一口に言っても、課題が山ほどあって、どう進めたらいいかわからない。

地域と向き合う中で、そういった悩みを抱えていませんか？
人口やお金、資源に限られる中で、地域の課題はますます増え、さらに複雑になっています。

これからの地域づくりは、行政、企業、NPO、民間団体などのプレイヤーが組織の垣根や立場を超えて、地域全体で取り組むことが大切です。

地域のプレイヤーが主体的に活動を生み出し続けること。
森・里・川・海などの自然や人、文化、歴史、産業など、地域に固有の資源が持続的に活用され、さまざまな事業が生まれていくこと。

そうした課題解決の“循環”をつくっていくことで、地域は育っていきます。



では、一体どこから手をつけたら良いのか？どのように考えたら地域づくりは進むのか？そんな疑問に答える一つの考え方が「地域循環共生圏」です。

めぐり つながり 育つまち



地域循環共生圏



地域循環共生圏について
詳しくはこちら (公式HP)

発行：2025(令和7)年3月

環境省大臣官房地域政策課地域循環共生圏推進室

作成：株式会社Ridilover

URL：<https://chiikijunkan.env.go.jp/>

地域をもっと良くしたい!けど...

こんなことで
困っていませんか?



地域づくりに関わる
担い手や
お金が足りない...

自治体だけ、民間団体
だけで地域づくりに取り
組むには限界がある



民間団体や住民が
地域づくりに関わる
“動機づけ”が難しい!



人や産業、森・里・海と
いった地域資源の活用の
仕方がわからない...



地域循環共生圏って?

環境・社会・経済の統合的向上



地域循環共生圏とは、それぞれの地域が固有の資源を活かし主体的に「自ら課題を解決し続け」、得意な分野でお互いに支えあうネットワークを形成していくことで、地域も国全体も持続可能にしていく「自立・分散型社会」を指す考え方です。地域で環境・社会・経済の課題を同時解決する事業を生み出していくことから「ローカルSDGs」とも呼ばれています。

こちらのQRコード(公式HP)から
詳しい事例をのぞいてください。



一般社団法人ゴジョる 岩手県釜石市

高齢者や未就業者など福祉領域での支援対象者に向け、地元産の未活用の木質資源を「薪」に加工・販売する仕事を創出。社会参加の場づくりをはじめ、林業×福祉×労働×環境を掛け合わせた「サステナブルなまちづくり」に取り組んでいます。

写真出典：環境省グッドライフアワード公式HP



エネシフ湖北 滋賀県長浜市

「ゼロカーボン×〇〇」をテーマに職業・活動・年齢の異なる多様な人たちが集まり、ワークショップやローカル事業を実施。例えば、EV車の電気で祭りの提灯を灯す、高校生が地元工務店と教室の断熱改修を行うなど地域で資源とお金が循環する仕組みをつくっています。

写真出典：エネシフ湖北公式note



有限会社丸徳水産/一般社団法人MIT 長崎県対馬市

食害魚による磯焼けが進んでいた対馬の海を改善するために、未利用魚・食害魚を給食や島内外の飲食店で活用する「食べる磯焼け対策」や、地元漁師がガイドとして対馬の海を案内する体験型の海遊記ツアーを実施。地元漁師の収益向上及び持続可能な藻場再生に繋がっています。

写真出典：有限会社丸徳水産公式HP